

真冬から早春へ

気象キャスターネットワーク



1月から2月にかけては真冬から早春へ季節が
 移り変わるときです。

二十四節気をたどると、小寒(だんだん寒さが厳しくなるころ、この日が寒の入り)、大寒(一年で一番寒いころ)、立春(暦の上では春、余寒はまだ厳しいが早春の花が咲き始める地域もある)、雨水(気温がゆっくり上がり、雪が雨に変わるころ)、という具合に季節が変化していきます。どんな風に移り変わっていくのか、まずは寒さに注目です。

鼻毛もラーメンも凍る寒さ

どれだけ気温が下がるのか、日本の最低気温の記録5位までは以下のとおりです。

順位	地域	最低気温	記録日
1	北海道 上川地方 旭川	-41.0℃	1902年 1月25日
2	北海道 十勝地方 帯広	-38.2℃	1902年 1月26日
3	北海道 上川地方 江丹別	-38.1℃	1978年 2月17日
4	静岡県 富士山	-38.0℃	1981年 2月27日
5	北海道 宗谷地方 歌のぼり登	-37.9℃	1978年 2月17日

観測した日付を見ると、ほとんどが1月下旬から2月中旬。やはり一番寒い時期だということが分かります。地域は標高日本一の富士山を抜いて、上位3位は北海道の内陸部となっています。

理由は2つあります。

- ① シベリア大陸から真冬の冷たい空気が流れ込む
- ② 山に囲まれた盆地にあたり、重たい性質を持った冷たい空気が地面付近に溜まりやすく、日差しのない夜の間に冷やされる(放射冷却現象)

私も1月下旬(大寒の頃)に北海道の十勝地方を取材したことがあり、氷点下25℃以下の寒さを体感しました。鼻毛やまつ毛も凍るほど、さらにバナナや生卵、カップラーメンもしばらく置いておくと固まってしまうほどの気温です。

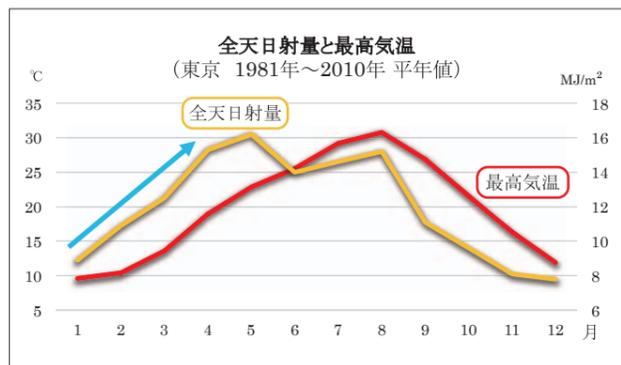


2014年1月20日 北海道陸別町

光は春へ

寒さの一方で、昼間の時間は徐々に長くなり、光は力強さを増してきます。

東京の月別の平年の全天日射量(地表面が受ける全ての太陽光の量)に注目しましょう。



1月から2月の最高気温はほとんど上がっていない一方、全天日射量は1月から2、3月にかけて、急速に多くなっていることが分かります。太陽高度がだんだん高くなって光が力を増してくるから、2月は「光の春」とも呼ばれます。

植物は気温だけでなく、こうした光の強さや昼間の長さを直接感じて花を咲かせます。ロウバイやフクジュソウが彩を添える季節です。



(左) ロウバイ
 (下) フクジュソウ

2017年1・2月 東京都内

季節の変わり目は荒れた天気要注意

四季のある日本は、その変わり目に荒れた天気が付きます。冷たい空気と暖かい空気が入れ替わろうとするとき、二つの性質の違う空気がぶつかり合うことで低気圧が発達するからです。

この時期に気をつけたいのは「春一番」。名称は明るい印象ですが、ときには暴風をもたらし、災害を引き起こすおそれもあります。

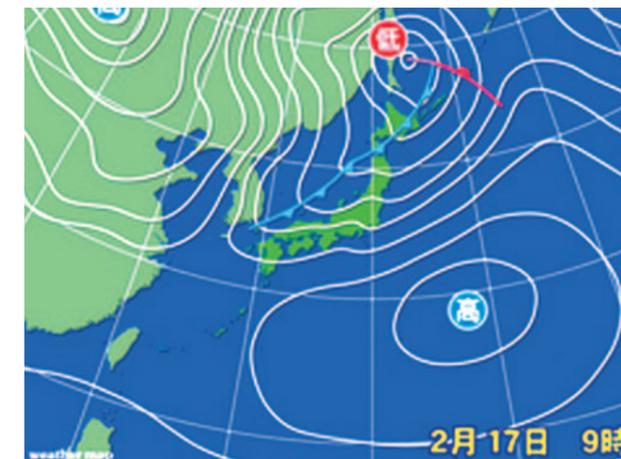
各地方気象台から発表されるため多少基準に違いがありますが、大きな条件は以下のとおりです。

- ① 期間は立春から春分
- ② 日本海で低気圧が発達
- ③ 南寄りの風8メートル/秒以上を観測
- ④ 気温が急上昇

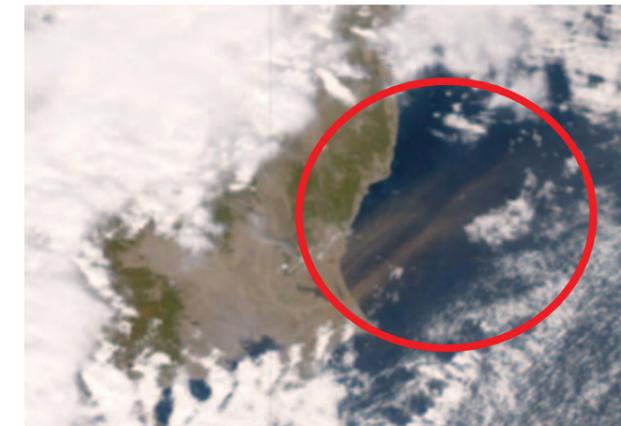
これらを満たすと春一番の発表となります。

次に示すのは実際に昨年、九州南部や四国、北陸、関東地方など広い範囲で春一番が観測された日の天気図と関東地方の雲画像です。

全国的に南寄りの風が強まり、気温は3月から4月並みに上がりました。東京では最大瞬間風速19.2メートル/秒を観測。関東地方を拡大した雲画像を見ると、赤丸で印した茶色く見えるのは関東平野から巻き上げられた砂塵です。強風に乗っ



2月17日 9時



2017年2月17日 天気図・雲画像

て南西方向から北東方向へと砂塵が舞いました。暖かい南風の影響で東京の最高気温は20.6℃と4月下旬並みまで上がりましたが、翌日にはみぞれが降るほどの寒さになりましたので、まだまだ気温が安定しない時期と言えます。

寒い時期を乗り越えてこそ春の表情は嬉しいものです。

大雪や暴風に備えると共に、一進一退を繰り返しながら移り行く季節を感じたいですね。

井田 寛子

Profile

筑波大学第一学群自然科学類化学科専攻。
 宇宙化学研究室卒業。
 気象予報士・キャスター。
 地球温暖化の対策を呼び掛けるため、出前授業や講演活動、2014年にはニューヨークで開かれた国連気候サミットに参加。
 著書に「気象キャスターになりたい人へ伝えたいこと(成山堂書店)」
 趣味はヨガ(全米ヨガアライアンス200取得)、ランニング、ダイビング、野菜料理(野菜ソムリエ)。

